

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	暗号技術によるIoTエコシステムのレジリエンス向上
研究代表者	崎山 一男 (電気通信大学・大学院理工学研究科・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、IoT デバイスを対象に巧妙な手口で暗号技術の脆弱性をつく攻撃に対して、暗号リーク耐性のみならず、リーク検知やリーク鍵の再構成を組み合わせ、大幅にレジリエンスを向上させようとするものであり、極めて独創的で大きな効果が期待できる研究である。また、問題設定が明らかで、それを解決する効果的な着想を示しており、研究成果の評価基準も明確である。また、従来の研究分野の枠組みに捕らわれず、ソフトとハード両面から分野横断的な取組による新しい研究分野の確立につながる提案である。応募者らのこれまでの優れた研究成果がその着想を十分に裏打ちしており、大きな研究成果が期待できる。</p>